



きじむんの どう〜ちゅいむにい〜 干支編

第9回 丑・牛(うし)

キーワード：牛 丑 畜産 牧 石垣牛

ハイサーイ and ハイターイ！ キジムンヤイベーン！

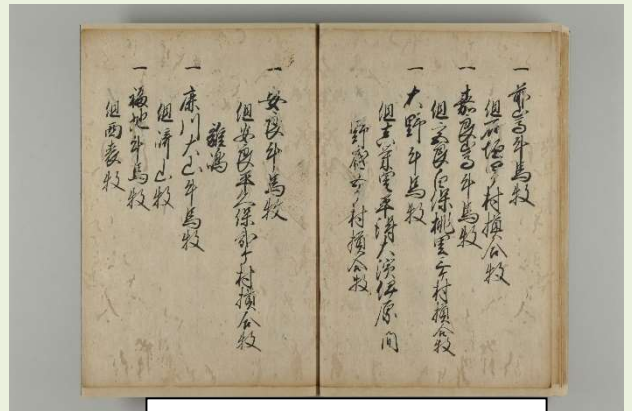
今年ももうすぐ終わりだね。皆さん、クリスマスやお正月の準備はばっちり？ 卒論や修論等で大忙しの学生さん、データのバックアップはこまめにとろうねー！ さて、今月のテーマは丑(牛)！ 一番最初に神様の所に到着したかと思ったら、ちゃっかりもののネズミに先を越されてしまった伝説をもつ、ちょぴり残念な十二支2番目の動物についてだよー。

・「丑」の字義について

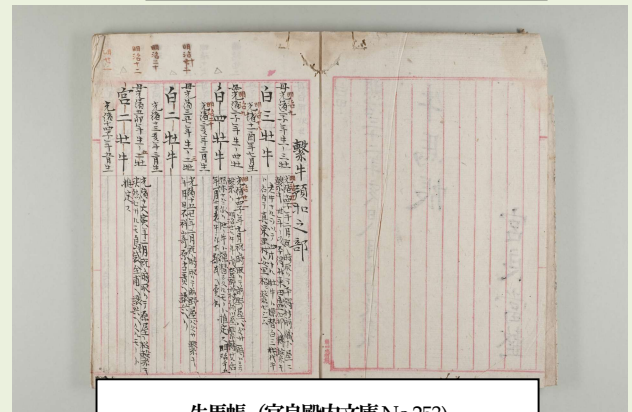
旧12月は丑の月で、寒気のためにいまだ事を成しえぬ意味を示し、寒気が解けるのを待ち、まさに手を挙げて仕事をし始めようとする義を表す(『説文解字(せつもんかいじ)』)とあります。動物では牛を表し(『論衡(ろんこう)』、物勢編)、方角は北東を指します。

・八重山の人々と牛との関り

『琉球国由来記』生類門によると、牛は「是和漢ノ間ヨリ渡シ来ル物ナラン」とあるのみで詳しい由来は記録されていませんが、昔から田畑の農耕用として欠かせない家畜でした。八重山地方では古くより畜産がさかんで、「牧(マキイ)」と呼ばれた牧場が村周辺の山麓一帯で経営されており、中には複数の村々が共同経営する「模合牧(モアイマキイ)」とよばれる牧場があったことが『八重山島山職務帳』(宮良殿内文庫公開 No.13, 1854年)に記録されています。王府としても、牛の管理には注意を払っていたようです。1768年に首里王府より八重山の役人たちへ行政上の規範とするよう布達された『与世山親方八重山島規模帳』によれば、農耕用の牛は重要なものであり、農民は一人ひとり所持しなければならないが、近年疫病が発生しており、牛が全滅しそうなので、村々でできるだけ繁殖させるようにと指示が出ています。また、『牛馬帳』(宮良殿内文庫公開 No.253, 1899年)は、牛馬の飼育状況を把握する台帳となっていて、各牛それぞれの母牛・誕生年月・所有権の移動等を明記して管理していたことがわかっています。



八重山島山職務帳 (宮良殿内文庫 No.13)



牛馬帳 (宮良殿内文庫 No.253)



石垣牛の放牧の様子(川本康博館長提供)

良いお年を！ 来年もよろしくね(CT)

- 参考文献：『大漢和辞典 修訂版』諸橋轍次著，大修館書店，1984-1986年
 『定本琉球国由来記』外間守善，波照間永吉編著，角川学芸出版，2011年
 『石垣市史』(各論編民俗，上)，石垣市史編集委員会，1994年
 『与世山親方八重山島規模帳』(石垣市史叢書2) 石垣市総務部市史編集室編，1992年

